

資産デザイン研究所 ブー・プラン 不動産投資フェア

資産デザイン研究所(東京都中央区、内藤代表)とブー・プラン(東京都目黒区、幸田代表)は2月28日、東京・大手町で「第1回世界の不動産投資フェア」を開催。欧米亜の物件を扱う会社などが集結し計16ブースが出展した。海外投資に興味を持つ投資家300人超が集まった。成長著しいタイやマレーシア、フィリピンのほかカンボジアとラオスの途上国に加え、米国とドイツの先進国も紹介した。各国の投資市場の魅力にとどまらず、現地の管理会社の選定の仕方や、為替や金利といったリスクの両面から迫るセミナーに立ち見が出る人気があった。週刊住宅新聞社も出展し、「先進国の不動産マーケットを考える」のセッションでは同社の長尾浩章社長もパネラーとして登場した。



した。リゾート需要やコリは8〜9%だ。カジノ・リゾート需要のバックオに近いホテル投資は魅力的だ。フィスのほか、人件費が安くセブでの起業と英語を学ぶ留学生も増えた。フィリピン経済の好調を受け、首都マニラも注目。先としてラオスを推奨するAITAコーポレーションは、「ポテンシャルが高い。主要道路マサイ通リ周辺は観光地で、日本1位を獲得。生活やビジネス、観光のすべてでコストパフォーマンスが評価される。平均利回8万5000円から



「2015年注目のアメリカ不動産投資」を皮切りにセミナーを進めた。主催の内藤代表も4年前に米国に初めて投資した。法整備に安定感がある。米国はニューヨーク(NY)やロサンゼルス(LA)、テキサス、ハワイを推挙すればいい」とアドバイス。パネラーのリストサザビーズインターナショナルリアルティはハワイを推挙して「日本に近くなじみがある。価格も安定し、金融危機後も資産価値が崩れなかった」と魅力をアピールした。コンドミニアムだけでなく、郊外の戸建ても魅力とした。

「ハワイの建物と土地の価格比率は8対2で建物が大半を占めている。4年間で建物部分を償却できるメリットを生かして節税目的として有効。特にオアフ島の物件は資産を守るのに適している」(内藤代表)。

中堅デベロッパーのマリモは米テキサス州を有し、売り手が強い市場。最近では米南部にIT企業が入り、人口が増加傾向にある。人口が増加傾向にあるから、全米4位の経済規模を誇り、移民も多

投資家300人超集結、欧米亜に熱視線

過去10年間で55%上昇し、売り手が強い市場。最近では米南部にIT企業が入り、人口が増加傾向にある。人口が増加傾向にあるから、全米4位の経済規模を誇り、移民も多。欧州を代表してウィンドグレート社がドイツの魅力を紹介した。「米国内の投資先として東京もアピールした。中古ワンルームを得意とする日本財託は、「3年前に購入した人はすでに売却益が出ている」と述べ、千代田、港、中央の都心3区は1戸当たり2000万円、4〜5%の利回り水準であるとして、長尾社長は市場について、「アベノミクスで流れが一変した。外国人の投資が盛んで、東京五輪会場近くの湾岸部や都心部が人気だ。五輪に向けて開発も進み好影響が続く」などと説明した。

投資可能で、すべて家具や食器など生活必需品をそろえて販売する。アンナキヤムパートナーズは、「カンボジアの経済成長は7%が続いている。向こう10年間で(経済規模は)10倍になる」と強調した。

マレーシアは安くないマーケットとなった。例外もあるが一般的に最低3300万円以上の投資額が必要。だが、デュアルタップインターナショナルは、「ロングステイ財団によると、8年連続で日本人の永住したい国1位を獲得。生活やビジネス、観光のすべてでコストパフォーマンスが評価される。平均利回8万5000円から

投資可能で、すべて家具や食器など生活必需品をそろえて販売する。アンナキヤムパートナーズは、「カンボジアの経済成長は7%が続いている。向こう10年間で(経済規模は)10倍になる」と強調した。

マレーシアは安くないマーケットとなった。例外もあるが一般的に最低3300万円以上の投資額が必要。だが、デュアルタップインターナショナルは、「ロングステイ財団によると、8年連続で日本人の永住したい国1位を獲得。生活やビジネス、観光のすべてでコストパフォーマンスが評価される。平均利回8万5000円から